

大会会長あいさつ

ようこそ，日本環境変異原学会第 46 回大会へ

日本環境変異原学会は 1972 年の結成以来、「人間・生物・地球環境における変異原，とくに公衆の健康に重大な関係を有する変異原とこれに関連する基礎研究の推進，並びに関連情報・技術の伝達」を目的として活動しております。そして，その研究成果を発表し，知識・情報交換を行う場として年次大会を開催してきました。本年度は東京都千代田区の一橋大学一橋講堂において 2017 年 11 月 6 日（月）と 7 日（火）の 2 日間にわたり日本環境変異原学会（JEMS）第 46 回大会を開催いたします。

本大会のテーマは、「多様化・高度化する遺伝毒性評価の役割と解釈 – 遺伝毒性試験はヒト発がんを予測できるのか –」としました。遺伝毒性の評価法が多様化・高度化するなかで，その役割と解釈を見つめ直すための特別講演およびシンポジウムを企画いたしました。

特別講演では，新しい発がんメカニズムの 1 つである Chromothripsis（クロモスリプシス）について Harvard Medical School の Alexander Spektor 博士を招聘し，"Chromosome segregation errors and chromothripsis in cancer pathogenesis" というタイトルでお話しいたします。私たちが遺伝毒性指標の一つとして用いてきた小核生成と，遺伝毒性評価の 1 つのゴールである発がんとの関係について，貴重な話が聞けるまたとない機会です。

シンポジウム 1 では DNA 損傷による変異やその抑制機構についてアカデミアの先生方に最新の研究成果を発表していただき，シンポジウム 2 では遺伝毒性に関する国際ワークショップ（IWGT）に参加する国際的な製薬企業のメンバーを中心に，開発戦略における遺伝毒性評価について議論していただきます。シンポジウム 3 では新しい評価の切り口として「環境変異原研究の新時代 – エピジェネティクスと *de novo* 突然変異 –」について最新の知見をご報告いただき，シンポジウム 4 では安全性評価研究会との共催シンポジウム「医薬品開発における遺伝毒性評価の意義 – トキシコロジストが求めるもの –」およびパネルディスカッション「毒性質問箱 – 医薬品開発の視点からの遺伝毒性 Q&A –」を企画し，産官学いずれの研究者にも興味を持っていただける内容といたしました。

この他，会員による最新の研究成果のポスター発表およびフラッシュトークのセッションを予定しております。今回はアメリカ，中国，ブラジルなどの海外の研究者からも多くの演題登録があり，これら海外の研究者や国内の若手研究者だけでなく，全ての研究者に口頭発表の機会を準備いたしました。多数の皆様のご参加と活発なご討論を心より期待し，本大会が参加者全員の今後の研究交流や発展につながることを祈念しております。

本大会の開催にあたりましては，多くの企業や団体，個人の方より多大なるご支援，ご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

2017 年 10 月吉日

日本環境変異原学会第 46 回大会
大会会長 濱田 修一



大会案内

□ 開催日・開催場所・連絡先

- 本大会：2017年11月6日（月）・7日（火）
一橋大学一橋講堂
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内
TEL：03-4212-3900
URL：<http://www.hit-u.ac.jp/hall/>

- 研究会 定例会：2017年11月5日（日）
17：30～19：00 哺乳動物試験研究会（MMS） 2F 一橋講堂
17：30～19：30 微生物変異原性試験研究会（BMS） 1F 特別会議室

□ 主 催

日本環境変異原学会第46回大会 実行委員会

□ 実行委員会

大会会長：濱田 修一（株式会社LSIメディエンス）
実行委員：伊東 悟（第一三共株式会社）
宇野 芳文（田辺三菱製薬株式会社）
大山ワカ子（株式会社ヤクルト本社）
紙谷 浩之（広島大学）
杉山 圭一（国立医薬品食品衛生研究所）
鈴木 孝昌（国立医薬品食品衛生研究所）
戸塚ゆ加里（国立がん研究センター）
橋爪 恒夫（Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社）
本間 正充（国立医薬品食品衛生研究所）
増村 健一（国立医薬品食品衛生研究所）
三島 雅之（中外製薬株式会社）
森田 健（国立医薬品食品衛生研究所）

□ 大会事務局

日本環境変異原学会第46回大会 大会事務局
〒314-0255 茨城県神栖市砂山14番地1
株式会社LSIメディエンス 創薬支援事業本部 試験研究センター
TEL：0479-46-7384 FAX：0479-46-7505
E-mail：secretariat@jems2017.com
URL：<http://www.jems2017.com/>

大会内容

□ 本会議

■ 特別講演 望月喜多司記念賞受賞講演

11月6日(月) 15:45～16:45

2F 一橋講堂

「Chromosome segregation errors and chromothripsis in cancer pathogenesis」

講演：Alexander SPEKTOR

座長：David KIRKLAND・Shuichi HAMADA

※本講演は望月喜多司記念賞の後援による

■ シンポジウム 1

11月6日(月) 9:30～11:15

2F 一橋講堂

「DNA 損傷による変異とその防御」

座長：紙谷 浩之・増田 雄司

■ シンポジウム 2 (インターナショナルセッション)

11月6日(月) 13:50～15:35

2F 一橋講堂

「Recent topics of genotoxicity strategy in drug discovery」

座長：Tsuneo HASHIZUME・Hans-Joerg MARTUS

■ シンポジウム 3

11月7日(火) 9:00～10:45

2F 一橋講堂

「環境変異原研究の新時代 - エピジェネティクスと *de novo* 突然変異 -」

座長：増村 健一・杉山 圭一

■ シンポジウム 4

11月7日(火) 13:45～16:35

2F 一橋講堂

安全性評価研究会との共催シンポジウム

「医薬品開発における遺伝毒性評価の意義 - トキシコロジストが求めるもの -」

座長：森田 健・川村 祐司

■ フラッシュトーク

2F 一橋講堂

P-1 ~ 38

11月6日(月) 16:50 ~ 17:50

座長：成見香瑞範・木本 崇文

P-39 ~ 55, P-80, P-56 ~ 79

11月7日(火) 10:50 ~ 11:50

座長：成見香瑞範・木本 崇文

■ ポスターセッション

2F 中会議場

発表コアタイム P-1 ~ 38

11月6日(月) 17:50 ~ 18:50

発表コアタイム P-39 ~ 55, P-80, P-56 ~ 79

11月7日(火) 11:50 ~ 12:50

□ 総会・授賞式

11月6日(月) 11:15 ~ 12:00

2F 一橋講堂

□ 受賞講演

■ 平成 29 年度日本環境変異原学会 学会賞

11月6日(月) 13:00 ~ 13:20

2F 一橋講堂

「遺伝子改変マウスを用いた酸化 DNA 損傷に起因する発がん機序の解明」

講演：續 輝久

座長：宇野 芳文

■ 平成 29 年度日本環境変異原学会 研究奨励賞

11月6日(月) 13:20 ~ 13:35

2F 一橋講堂

「DNA 損傷応答の定量化と可視化に関する研究」

講演：松田 俊

座長：宇野 芳文

■ 平成 29 年度日本環境変異原学会 功労賞

11月6日(月) 13:35 ~ 13:50

2F 一橋講堂

「遺伝毒性試験法の最適化と国際標準への貢献」

講演：森田 健

座長：宇野 芳文

□ 懇親会

11月6日（月）19：10～20：30
如水会館 2F スターホール
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-1-1
TEL：03-3261-1101
URL：<http://www.kaikan.co.jp/josui/>
（一橋大学一橋講堂となり）

□ 企業展示

11月6日（月）10：00～18：50，11月7日（火）10：00～14：00
2F 中会議場

□ ベストプレゼンテーション賞の選考について

一般演題の中から、ベストプレゼンテーション賞として、日本環境変異原学会評議員による投票により本年度の優れた発表4題を選考し、「秦野賞」、「BioMed Central Award」、「オックスフォードジャーナル賞」、「エルゼビア賞」を授与します。表彰は閉会式で行います。

□ 第一編集委員会

11月5日（日）10：00～11：30
1F 特別会議室

□ 平成29年度 第4回理事会

11月5日（日）12：00～14：00
1F 特別会議室

□ 平成29年度 第2回評議員会

11月5日（日）14：30～17：00
1F 特別会議室